

Q 空き家対策について

おおそねひであき
大曾根英明 議員



A 空き家の活用という考え方を基本とする



問 現状把握と本市の傾向は。
答 空き家の数及び空き家率の動向は、埼玉県と近似しているものと考えており、微減していると推測している。

問 利活用を含めた問題解決は。
答 鶴ヶ島市空家等対策計画で、「空家等の発生を予防・抑制」、「空家等の活用・流通を促進」、「空家等の適正管理を促進」の3点を基本方針とし、取組を行っている。居住中からの意識啓発や注意喚起に加え、埼玉県宅地建物取引業協会埼玉西部支部との協定により、空き家バンク制度を設けている。また、周辺に悪影響を及ぼす空き家などの所有者に対して是正通知の発出や直接訪問などにより適正管理の促進をしている。

問 災害対策について。
答 空家等対策の推進に関する特別措置法では、特定空家等や管理不全空家等は、行政が関与しやすくなる制度が設けられているため、適切に運用する。

問 将来に向けた取組について。
答 今年度予定している空家等対策基本計画の改定にあたり、「空き家の活用」という観点に着目し、作業を進めていきたい。また、空き家等意向調査の結果を分析し、本市の実情に即した取組を展開する。

Q 認知症高齢者が安心して暮らせるまちに

こばやし
小林ひとみ 議員



A 今年度からチームオレンジの取組を開始する

問 市内の認知症高齢者数と高齢者人口に対する割合は。

答 介護認定を受けた方のうち、日常生活に支障をきたす症状や行動が見られる認知症高齢者数は、令和4年10月末現在、1808人で、65歳以上の高齢者に占める割合は、8・8%である。

問 認知症患者に対する支援は。
答 市及び各地域包括支援センターに、認知症地域支援推進員を配置し、関係機関と連携した事業の企画や相談会を実施している。また、情報交換の場として、8か所で「オレンジカフェにこまる」を開催している。



ご家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援者をつなげるチームオレンジの取組を開始する。

問 認知症に対する正しい理解を深めるための児童・生徒への取組は。

答 小中高生を対象に、認知症サポーター養成講座を実施している。児童・生徒からは、認知症を理解でき、対応方法が分かったなどの感想があった。

◎その他の質問

一 鶴ヶ島市の文化財を魅力あるものに
二 特別支援学級について